

A-98 血清および組織コレステロール量におよぼす食餌タンパク質の影響
十文字学園短大・栄養 濱口恵子 林 寛

目的 各種のタンパク質を種々の比率で動物に与えた場合の成長，血清，肝臓および副腎コレステロール (Ch) 量を測定し比較した。

方法 ウィスター系雄シロネズミ (体重約 80g) を，低タンパク質食餌群 (N:11%
%, I群) と正常タンパク質食餌群 (N:22%, II群) の 2群に大別し，両群を更にカゼ
イン (C), アルブミン (A), グルテン (GL) およびゼラチン (GE) の 4食餌区
(区 5匹) にわけ，これら 8試験食餌を自由に与えて 14日間飼育した。血清 Ch は Zak
法，組織 Ch は Sperry-Webb 法で測定した。

結果 動物の成長は両群とも A区が最もよく GL区で劣り，GE区の体重は著しい減少
が認められた。血清 Ch は I群の C区が低い値を示し他の食餌区間には差がなく，II群
は GL区がいくらか高い値を示すが各食餌区間に差がほとんどない。両群を比較すると
I群の C区が低い値を示すほかは差がない。肝臓 Ch は I群の C区が他の食餌区に比
べて低い値を示し，A, GL および GE区はエステル型 Ch の増加がみられた。これらの区
間には有意差はなく，食餌タンパク質量が増えるといわれも値の低下がみられた。すな
わち II群は各食餌による差は少ないが C区の値が低く，GE区がいくらか高値を示した。
副腎 Ch は両群とも C および A区が低い値を，GL および GE区が高い値を示したが，こ
れはエステル型 Ch の増加による。両群を比較すると，食餌タンパク質量が増えると C区
は値が減少し，GE区は値が増加するが，A および GL区は値が変らなかった。